



# ロジクールSightとMicrosoft の各種カメラモードを活用し たコラボレーションの強化 Microsoft Teams Roomsの高度な機能 でロジクールのカメライノベーション を活用する

著者 Craig Durr

プラクティスリード - Workplace Collaboration | The Futurum Group

2024年2月

提携

logicool®

# はじめに

私たちがこれまで行ってきた会議への取り組み方は間違っているのでしょうか？

企業内でのコラボレーションを取り巻く環境が進化を遂げる中、会議に対する画一的なアプローチは時代遅れになりつつあります。実際、先進的な企業の中には、名目にこだわらない、目的に即した新たな視点により会議を捉えているところもあります。

このアプローチは[マッキンゼー](#)<sup>1</sup>の研究者からも支持されており、同社は会議をその内容や名目で考えるのをやめ、最終的な目標に目を向けることの重要性を説いています。彼ら

は、なぜ会議を行うのかということ突き詰めていくと、会議は、最終的な目標別にいくつかのカテゴリーに分類できると結論付けています。

このパラダイムでは、テクノロジーの役割が、こうした集まりの効果を高める極めて重要な要因として浮かび上がってきます。本書は、IT機器やAV機器の意思決定者である皆様に、ロジクールのカメラテクノロジーをMicrosoft Teams Roomsでどのように活用し、日常的なやり取りを生産的で包括的かつ魅力的な会議に変えることができるのかについて、理解を深めていただくことを目的としています。



<sup>1</sup>Aaron De Smet, Gregor Jost, および Leigh Weiss. 「より良い決断は、よりよい会議から。」 McKinsey Quarterly, 2019年5月8日。



## 会議を目的別に定義する

会議は組織におけるコミュニケーションの要ではありますが、すべての会議が同じというわけではありません。大きく分けると、**意思決定**のための会議、**共有**のための会議、**ディスカッション**のための会議などがあります。

さらに、会議の種類ごとに、それぞれの最終的な目標を達成するための個別の解決方法が求められます。これは、適切なテクノロジーによって強化できる戦略に他なりません。つまり、「会議テクノロジー」を会議のカテゴリーやスタイルに合わせることで、最大限の成果を上げることができるのです。

### 目的に即した会議の枠組み

	どのようにして会議が実行されているか	どのようにしてテクノロジーが会議を強化できるか
意思決定のための会議	これらの会議は非常に重要で、しばしば戦略的な検討や意思決定を伴います。ここでは、主要ステークホルダーの身振り手振りなどの非言語的なやり取りを含む、会議室内の動向を把握することが、話し言葉と同じくらい重要なことがあります。	会議室内の全体像を映し出すことで、あらゆる詳細がはっきりと見えます。 会議室内の映像を適切にトリミングし、人の出入りに合わせて自動調整することで、参加者全員をフレーム内に収めることができます。
共有のための会議	このような会議では、発表者に焦点を当てることが重要です。多くの場合、細部にわたる複雑な情報を共有する話者を中心に据える必要があります。	表情からジェスチャーに至るまで、主な話者の微妙なニュアンスを巧みに捉えることのできるカメラによって、メッセージを効果的に伝えることができます。
ディスカッションのための会議	これらの会議はテンポが速く、双方向的です。複数の参加者が立て続けに発言することもあるため、あらゆる反応や発言内容を的確にとらえることが不可欠です。	会議室に複数の人がいる場合、カメラテクノロジーによって各人はそれぞれのフレームに収まります。これにより、全員がはっきりと見聞きできるようになり、アイデアのシームレスな流れが促進されます。 これは、最後の数人の話者の映像を合成することで実現できます。

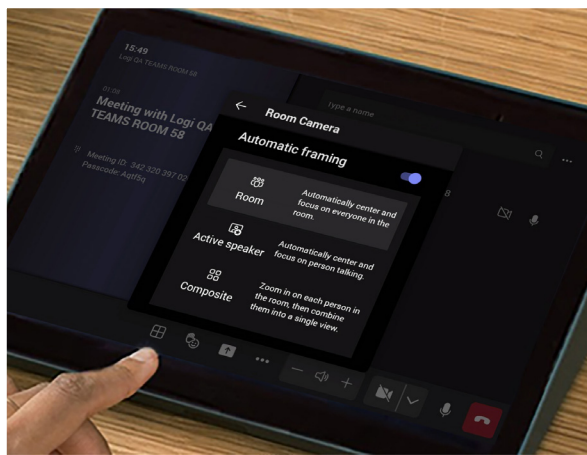
このように会議の目的が多様であることを認識し、それを受け入れることが、企業でのコミュニケーションを効果的に見直す第一歩となります。次のステップは、最大限の成果を会議で上げるために、カメラテクノロジーを会議室内の動向の把握に役立てることです。

# 会議の目的に合わせて使用できるロジクールRightSight 2自動フレーミング

この枠組みを参考にした結果、ロジクールの高度なカメラソリューションがこれらの多様な要件に対応し、会議室内の参加者もリモートからの参加者も同じように参加し、会議に確実に貢献できることがわかりました。そしてそれはRightSight 2自動フレーミングから始まります。

様々な会議室ビューを選択できるMicrosoft Teams環境では、RightSight 2自動フレーミングテクノロジーがロジクールのカメラソリューションの中核となり、自動的にフレームを調整し、すべての参加者を鮮明に捉えます。新しく話者を参加させる場合でも、現在の話者に焦点を合わせるためにズームインする場合でも、RightSight 2によって、常に視覚的に最適化された会議を参加者全員に提供します。

ロジクールRightSight 2自動フレーミングは、特にMicrosoft Teams Rooms環境に導入した場合に、目的に即した会議の枠組みとうまく調和します。ロジクールRightSight 2が提供するカメラビューには、意思決定のための会議に適した、インテリジェントに会議室内の映像をフレーム内に収める**会議室ビュー**、主な発表者に焦点を当てる**重要な共有のための会議に適した話者ビュー**、ディスカッションのための会議において会議室の最後の話者数人が横並びにフレーム表示され、リモートからの参加者が会話の流れを把握できなくなることを防ぐ、お客様のニーズにこたえた**コンボジットビュー** (Microsoft Intelliframeテクノロジーの一部)があります。



# ロジクールカメラとそのテクノロジー：Microsoft Teams Roomsと連携したソリューション

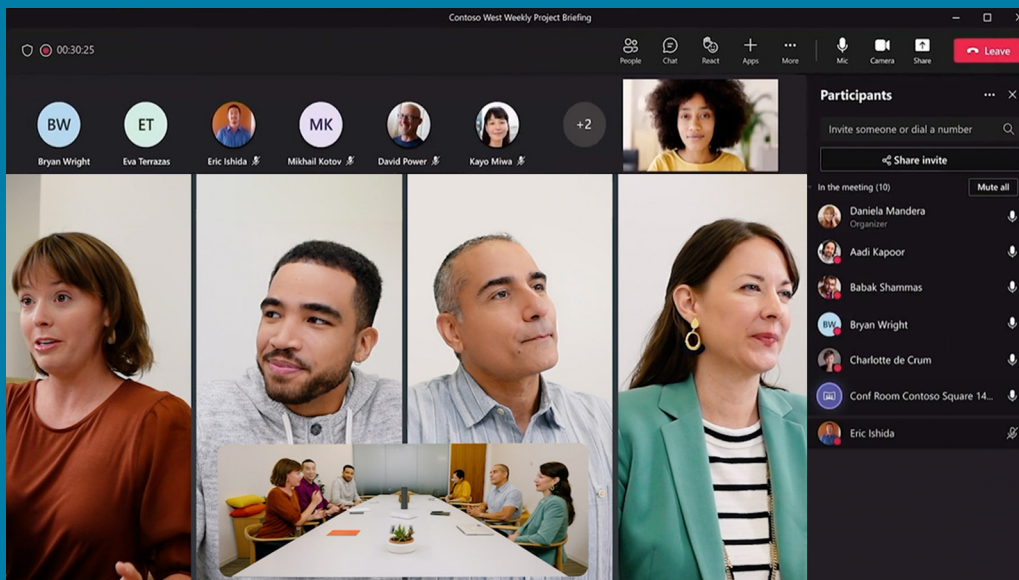
では、Microsoft Teams Roomsを導入する際、これらはどのように機能するのでしょうか？Microsoft Teamsの各会議スペースごとに状況が異なるため、ビデオ会議ソリューションには様々な環境に適応できる柔軟性が求められます。ロジクールは、様々な会議室のサイズや特定のニーズに対応する包括的なソリューションを提供する厳選されたベンダーとして際立っています。

Rally Bar Huddle、Rally Bar Mini、Rally Barを含むRallyポートフォリオは、ハドルルームや小、中、大会議室などの従来サイズの会議室に対応するように綿密に設計されています。ロジクールのソリューションの特徴は、RightSight 2自動フレーミングにより、各会議室のサイズに適応できることです。会議室のサイズや会議室内の状況に関係なく、ロジクールのポートフォリオは、会議室の主な利用方法に対応することができます。しかし、小、中、大規模の「型にはまった」サイズ以外の会議室についてはどうでしょうか？

## ロジクールSightを追加して、誰も取り残すことのない Microsoft Teams Roomsの会議を実現

どの会議室にも、その大きさ、形状、または家具の配置などの違いによる、特徴があります。時には、その個別の特徴に起因する、標準的なソリューションでは対応できない特定の課題をもたらすこともあります。例えば、大きな会議室のような重要度の高い会議室では、1台の会議室前方のカメラやテーブル中央のスタンドアロンカメラでは対応しきれないため、より複雑なカメラ構成が必要になることがよくあります。

そこでロジクールは、誰も取り残されない、より充実した会議体験の必要性を認識し、AIを搭載した卓上型コンパニオンカメラ、Sightを発表しました。この先進的なカメラシステムは、Microsoftによって正式に会議室システムアクセサリと名付けられ、Rally BarまたはRally Bar Miniと連携して動作します。これは、テーブル中央のカメラと会議室前方のカメラを組み合わせ、最適なアングルとビューを提供することで、すべてのディスカッションの要点を捉え、リモートからの参加者を会話の中心に効果的に導くように設計された、市場の先駆的なソリューションです。



ロジクールSightを使えば、リモートからの参加者は単なる傍観者ではなくなります。それどころか会議に欠かせない存在となり、より没入感のあるインタラクティブな会議を体験することができます。このカメラは単に視認性を高めるだけでなく、物理的な場所に関係なく、すべての参加者が評価され、耳を傾けられていると感じられるような存在感を演出します。



## ロジクールSight : Microsoft Teams Roomsで 認定済み

ロジクールSightはMicrosoft Teams Roomsと互換性があるだけでなく、認定を受けています。<sup>2</sup>この認定は、Teams Rooms環境とシームレスに連携するということの証で、会議室内の各参加者の姿のアップと会議室内の全体表示を単一のレイアウトで表示することなどができます。この機能により、リモートからの参加者は単に会議を傍観するだけでなく、まるで会議室内にいるかのように会議で行われている議論に参加することができます。

## 会議室の将来を 見据えたSight の機能

将来を見据え、ロジクールは現在の栄光に満足する企業ではありません。間もなくリリースされる「SmartSwitching」機能は、ロジクールの継続的なイノベーションへのコミットメントの証です。この機能により、話者の位置と視線方向に基づいて常に最適なカメラアングルを確保できるように、Rally BarとSightのカメラを参加者ごとに自動的に切り替えます。この先を見据えたテクノロジーは、会議を誰も取り残されない活気に満ちた、充実したものにするをお約束します。

## 将来的なMicrosoft Teams Roomsとの互換性

もちろん、この技術革新はMicrosoft Teams Rooms環境にも当てはまります。ロジクールは現在、Front Rowやコンテンツカメラなど、Microsoftの独自機能をサポートするためのハードウェアおよび機能拡張されたソフトウェアのポートフォリオを揃えています。また、前述したように、ロジクールはMicrosoftの最初のIntelliframe機能であるコンポジットビューもすでに利用可能にしています。

Microsoft Teams Roomsテクノロジーの未来は、Intelliframeを中心に据えた明るくインテリジェントなものです。Intelliframeは、現在および今後の機能拡張の中核となり、従業員のコミュニケーションのあり方を引き続き変革していくでしょう。ロジクールは、Intelliframeの機能の実現にむけて最前線で活動しており、このビジョンをサポートするために、マルチストリームやデジタイゼーション接続など、将来的な機能の確固たるロードマップを用意しています。

ロジクールは、Microsoft Teams Roomsの技術的進歩に歩調を合わせるだけにとどまらず、先導的な役割も果たしています。

<sup>2</sup> Sightに加え、Rally BarやRally MiniはMicrosoftの認定を受けています。 <https://learn.microsoft.com/en-us/microsoftteams/rooms/certified-hardware?Tabs=Devices>.

# 結論：ロジクールのMicrosoft Teams Rooms用インテリジェントカメラに投資する数多くのメリット

ロジクールのインテリジェントカメラへの投資は、企業でのコミュニケーションの未来へのコミットメントの表明です。それは、目的や開催場所に関係なく、あらゆる会議が、誰も取り残されない、活気に満ちた、生産性の高いものとなるよう、適応し、進化するテクノロジーへの投資なのです

技術進化の岐路に立つ今、ロジクールのMicrosoft Teams Rooms用インテリジェントカメラは、すべての会議が成長、コラボレーション、成功の機会となる未来への健全な道筋として捉えられています。





## ロジクールについて

ロジクールは、すべての人が情熱を追求できるよう支援すること、そして人と地球に優しい方法でそれを行うように努めています。またビジネスの成功に貢献し、仕事や創造的活動、ゲーミング、ストリーミングにおいて、人と人をつなげるハードウェアおよびソフトウェアソリューションを開発しています。Logitech Internationalは1981年に創立された、スイスのローザンヌに本社を置く、スイス連邦の株式公開企業であり、スイス証券取引所（SIX : LOGN）とNASDAQ Global Select Market（LOGI）に上場しています。ロジクールとビジネス製品、エンタープライズソリューションについて詳しくは、[www.logicool.co.jp/business](http://www.logicool.co.jp/business)、[Logicool for Businessブログ](#)、[@LogitechBiz](#)をご覧ください。



## The Futurum Groupについて

TFG Research [futurumgroup.com](http://futurumgroup.com)社は、ユニファイドコミュニケーションの分野において、コラボレーションおよび会議用の製品とサービスに関する戦略的ガイダンスとインサイトを提供する会社です。当社のグローバルな顧客ベースには、音声、ビデオ、ストリーミング、ウェブコラボレーションソリューションを提供する既存および新規のテクノロジーサプライヤー、サービスプロバイダー、企業ユーザーが含まれます。当社は、市場調査やコンサルティングの提供、テクノロジートレンドや顧客体験に関するカンファレンスの開催、無料の週刊ニュースレターの発行、顧客や業界のイベントでの講演を行っています。



## リサーチャーについて

Craig Durrは、The Futurum Groupでプラクティスリードを務めています。企業、従業員、お客様の間にシームレスなつながりを生むサービス、テクノロジー、デバイスに焦点を当てた Workplace Collaboration（職場のコラボレーション）を担当しています。

製品開発、戦略立案、損益管理、価値提案の策定、およびセキュリティ、SaaS、およびユニファイドコミュニケーションサービスのビジネス開発に関わる責任者として、20年間におよぶ経験を有しています。Craig氏には、Poly、Dell、Microsoft、IBMでの職務経験があります。

連絡先は以下の通りです。メール：[cdurr@futurumgroup.com](mailto:cdurr@futurumgroup.com)、

Twitter：[@craigdurr](#)、LinkedIn：<https://www.linkedin.com/in/craigdurr/>。